

— 會 告 —

I. 日本鐵鋼協會第 42 回 (秋季) 講演大會講演募集

講演募集申込締切期日 昭和 26 年 8 月 20 日 開催地 名古屋市

期日 昭和 26 年 10 月 13 日(土). 14 日(日) 兩日講演 15 日(月) 見學

開催のことゝなりましたから講演御希望の方は下記要項お含みの上奮つてお申込み下さい、

講演申込要項

- (1) 講演申込期日は昭和 26 年 8 月 20 日とし締切は勵行いたします。
- (2) 申込用紙はハガキ大の紙片に講演題目、講演者(學位、稱號、振假名付氏名)連名のときは實際の講演者に○印を附すること、所要時間、幻燈の要否を書き宛先……………東京都千代田區丸ノ内 2 の 10 仲 14 號館 1 號日本鐵鋼協會としてお出し下さい。
- (3) 申込みと同時に圖表を含み 400 字詰原稿用紙 2~3 枚程度の講演大要を必ず御送付下さい。講演大要には可及的に實驗研究の成果を數字的に或は圖表により簡潔にお示し下さい。又同一講演題目下に第 1 報第 2 報等の連續講演は御遠慮下さい。一つに纏めて御講演のこと。
- (4) 前項の大要が到着しませんとお申込みを受理いたし兼ねますので申込締切期日嚴守と併せ此點特に御諒承下さい。

II. 本年度の會費納入相成度お願い

- (1) 會費値上げになりましたので次の通り何卒御送金下さい。  
 正會員 從來年 500 圓のところ 600 圓となりました。既に本年度の會費をお納めになつた方は今直ぐ 100 圓お納め下さい。  
 學生會員 從來年 200 圓のところ 400 圓となりました。既に本年度の會費をお納めになつた方は今直ぐ 200 圓お納め下さい。
- (2) 會費收納狀況が大變悪るので會誌發行の繼續が不安となりました。まだ本年度の會費御納入にならない方は至急正會員 600 圓、學生會員 400 圓をお拂込み下さいお願いいたします。

(振替 東京 193 番)

- (3) 過般會員名簿のお買上げをお願いいたしお手許え届いて居ると存じますが御送金のまだ濟まない方は何卒協會資金枯渴の折柄特別の御同情を以て至急お拂込みをお願いいたします (一部 100 圓)

III. 鋼の熱處理と作業標準

下記“鋼の熱處理と作業標準”(限定版)が出来上り豫約の方々へは全部發送済みしました。まだ少々餘分がありますので御入用の方は無くなりませぬ内に至急お申込み下さい。特にお勧め申し上げます。

特 價 1 冊 金 300 圓 (送料として別に 40 圓) お申込みと同時に御送金のこと。

體 裁 B 5 版 約 180 頁 (總クロス上製美本)

内 容:—

緒 言

第 1 編 總 論

第1章 熱處理に関する術語の意義、第2章 熱處理加熱爐、第3章 熱處理操作、第4章 試験及び検査法。

## 第2編 各論

第1章 鍛鋼の熱處理作業標準、第2章 機械構造用炭素鋼の熱處理作業標準、第3章 構造用大物特殊鋼の熱處理作業標準、第4章 構造用小物特殊鋼の熱處理作業標準、第5章 肌焼鋼の熱處理作業標準、第6章 窒化鋼の熱處理作業標準、第7章 ステンレス鋼の熱處理作業標準、第8章 耐熱鋼の熱處理作業標準、第9章 炭素工具鋼の熱處理作業標準、第10章 特殊工具鋼の熱處理作業標準、第11章 ヤスリ鋼の熱處理作業標準、第12章 ダイス鋼の熱處理作業標準、第13章 高速度鋼の熱處理作業標準、第14章 バネ鋼の熱處理作業標準、第15章 軸受鋼の熱處理作業標準、第16章 普通鋳鋼の熱處理作業標準、第17章 特殊鋳鋼の熱處理作業標準、第18章 焼戻性能曲線。

附 録 日本工業規格抜萃

## 日本鐵鋼協會『鐵と鋼』誌へ寄稿規程

(今般鐵と鋼誌への寄稿規程を下記の如く改正しましたので御寄稿の際は御熟讀願ひます。

尙本規程に添はざるものは御返却申しますから豫め御了承願ひます)

1. 原稿用紙は本會所定のものを用いること。御請求次第一冊(30枚綴)30圓にてお送りします。
2. 論文は出来るだけ簡単にし圖表を含めて會誌5頁(400字詰原稿用紙25枚)を超えないこと。
3. 論文の冒頭には歐文のアブストラクトを記載すること。
4. 本文は成るべく常用漢字を用い、平かな交り左横書きとし、新かなづかいを用い、術語は工業標準用語及び學術標準用語を使用すること。
5. 數字は算用數字を用い、外國語は片假名にて、外國固有名詞は原語のまま記すこと。
6. 圖・寫眞・表はなるべく少くし(圖、寫眞は合計10個以内に制限)同一事項を圖表兩方にて表わすことを避け、次の要領に従うこと。
  - (イ) 圖及び寫眞は圖毎に別紙とし、圖は白紙又は淡青色方眼紙に墨できれいに書き、直ちに凸版にできるようにすること、青寫眞は使用しないこと。
  - (ロ) 圖は幅が70mm程度に縮寫しても圖中の文字が明瞭に判讀できるように適當の大ききとすること、但し圖中の文字は鉛筆書にされたし。
  - (ハ) 圖・寫眞・表等の挿入箇所は豫め原稿中に指定し、表はなるべく本文中に挿入すること。
7. 數字は印刷に便なるように注意し、文中に挿入するときは、 $a/b$ 、 $x/(a+b)$ のように記し、行の上下に出ないようにすること。
8. 各種單位、記號及び數量を表わすには次の例に従うこと。
 

km (キロメートル)	mm <sup>3</sup> (立方ミリメートル)	SKola~o2a (セーガル維零一乃至零二番)
m (メートル)	cm <sup>2</sup> (平方センチメートル)	10・35 圓 (十圓三十五錢)
cm (センチメートル)	kg/cm <sup>2</sup> (毎平方センチメートル・キログラム)	56,350 (五萬六千三百五十)
mm (ミリメートル)	kg/mm <sup>2</sup> (毎平方ミリメートル・キログラム)	1948年6月 (千九百四十八年六月)
t (トン, 1000kg)	% (パーセント)	78—85°C (攝氏七十八度乃至八十五度)
kg (キログラム)	cal (カロリー)	Cr-Mn-W 鋼 (クロム, マンガン, タングステン鋼)
g (グラム)	Kcal (キロカロリー)	mg (ミリグラム)
m <sup>3</sup> (立方メートル)	min (分)	l (リットル)
cc (立方センチメートル)	1/2N (二分の一規定)	sec (秒)
9. 抄録、譯文及び文獻の出所は著者名、雜誌名、發行年度、卷數、號數、頁數の順に記載すること
10. 原稿は編集委員會に於て取捨變更することがありますから豫め御了承せられたい。